令和元年度　調査研究報告

参加議員　加納　洋明

研修日時　令和元年10月31日（木）～11月２日（土）　３日間

研修場所　31日　①武雄市役所（官民一体型小学校について）

１日　②山鹿市役所（認知症等支援事業について）

２日　③長崎原爆資料館（平和事業等の取り組みについて）

行程

	出発	到着	詳細	金額	備考
10/31（木）	石狩市内	麻生	タクシー (6,280円÷3名×1名)	2,094	領収書③
	麻生	新千歳空港	空港連絡バス（往復） 回数券　2,100円	1,050	領収書②
	新千歳空港	福岡空港	航空機利用（羽田経由）	―	領収書①に含む
	福岡空港駅	博多駅	地下鉄	260	領収書④
	博多駅	武雄温泉駅	JR	―	領収書①に含む
	武雄温泉駅	武雄市役所	徒歩	―	
	15:00～16:10　①武雄市役所		研究研修		
	武雄市役所	武雄市内ホテル	武雄市役所公用車	―	
11/1（金）			武雄市内ホテル宿泊に伴う 入湯税(450円÷3名×1名)	150	領収書⑤
	武雄市内ホテル	武雄温泉駅	タクシー (810円÷3名×1名)	270	領収書⑥
	武雄温泉駅	鳥栖駅	JR	―	領収書①に含む
	鳥栖駅	玉名駅	JR	―	領収書①に含む
	玉名駅前	山鹿郵便局前	バス	800	支払証明書№1
	山鹿郵便局前	山鹿市役所	徒歩	―	
	14:00～15:30　②山鹿市役所		研究研修		
	山鹿市役所	新玉名駅	タクシー (4500円÷3名×1名)	1,500	領収書⑦
	新玉名駅	新鳥栖駅	JR	―	領収書①に含む
	新鳥栖駅	長崎駅	JR	―	領収書①に含む
	長崎駅	長崎市内ホテル	タクシー (920円÷3名×1名)	306	領収書⑧
11/2（土）	長崎市内ホテル	長崎原爆資料館	タクシー (1470円÷3名×1名)	490	領収書⑨
	9:45～10:50　③原爆資料館		観覧料	200	領収書⑩
			音声ガイド使用料	157	支払証明書№2
	原爆資料館	長崎駅前	タクシー (1170円÷3名×1名)	390	領収書⑪
	長崎駅前	長崎空港	空港連絡バス	―	領収書①に含む
	長崎空港	新千歳空港	航空機利用（羽田経由）	―	領収書①に含む
	新千歳空港	麻生	空港連絡バス（往復） 回数券　2,100円	1,050	領収書②に含む
	麻生	石狩市内	タクシー (6280÷3名×1名)	2,094	領収書⑫
パック料金内容	往復航空券：10/31 新千歳空港→福岡空港　11/2 長崎空港→新千歳空港 宿泊費：10/31武雄市内ホテル1泊、11/1長崎市内ホテル1泊 車両等費：10/31・11/1のJR代金、 11/2の空港連絡バス代金（長崎駅前－長崎空港）			93,150	領収書①に含む
	パック料金振込手数料			880	領収書①に含む
				104,841	

石狩市議会　公明党　道外視察報告書

○　•加納　洋明　•阿部　裕美子　•遠藤　典子　　3名参加

○令和元年　10月31日(木)　15時より

○佐賀県武雄市　市役所にて

○「官民一体型学校」の取り組みについて

武雄市の人口は　5万弱　世帯数約1万7千世帯で、

石狩市と比べ、それぞれ約1万少ないまちです。

面積は　195.4㎢で　石狩市の722.4㎢に比べると3分の1以下となります。

訪問した前月には集中豪雨による災害で、床下浸水と床上浸水を合わせると

千棟近い家屋で被害に遭われた様です。そんな中で受け入れて頂きました。

武雄市は、蔦屋書店と併設した市立の図書館が有名です。

オープンした頃は、良くテレビ等で、市立図書館の中にカフェが有り

借りるだけでなく、本の購入も出来る等と報道されていました。

市内の小学校11校の内10校で、官民一体型学校として取り組まれ

最後の1校も今年の4月からスタート致します。

小規模校より順に進められてきました。

この度の、行政視察では、

事前に質問事項を連絡し、それに答えて頂く形で説明を伺いました。

1.どのような事が契機となり始まったのか。

――地域間格差（人口）と、増える不登校に対して、何とかしなければならないと地域協議会で以前より話し合われてきた。先生だけでは無理ではないか、民間・企業の力を活用しよう、と導入に至った。

2.児童・保護者の、この事業が始まる前と、現在の声（反応）は

――賛否両論あった。市立図書館を民間の蔦屋書店と並立した形で建設し、日本中の脚光を浴びる画期的な取り組みをした市長に対する、期待も有ったのではと思います。導入後は、元気な挨拶が出来る子や、苦手教科を克服出来た子が増えた。武雄市の教育を求めて、教育移住された方が7世帯21人居る。

3.民間の部分はどの様な内容の物を、どの位の量取り込まれているのか

――朝の15分を活用し、5分位の間隔で4種類の授業をテンポよく行う。（モジュール授業）。2か月に1度、金曜日の午後は青空教室で学年やクラスを越え、校庭や校外で自然と触れ合いながら学び合います。算数や理科では、タブレット端末を家庭に持ち帰り、動画を使い予習をした上で、学校で学び合う武雄市独自の授業を行っています。

4.民間の物を取り込む事で必要なカリキュラムを消化出来るのか

――朝時間などを使っているので、民間の物を取り入れる事で

　　時間が足りなくなるわけではない

等、詳しく説明を受けました。

朝時間のモジュール授業では、テンポよく進めて行かなければならず

担任1人では厳しい状況ですが、そこに地域から支援員の方が、クラスに2～3

名程度入られていて、ミニテストや漢字の練習等に、良く出来ましたという

意味の花丸を付けたり、声を掛けたりしています。

支援員さんは、特に資格が必要な訳ではなく、

登録制になっており、ボランティアで参加されています。

支援員同士、情報交換をしており、子供もたちとの心の交流もあり、

皆さん楽しく活動されている様です。

官民一体学校の意味としては、官と民間との意味だけを考えていましたが、

民には市民の民の意味も含まれていました。

武雄市に於いて、コミュニティースクールを導入しました際、

官民一体型学校の導入により、スムーズに移行出来たとの事でした。

石狩市に於いても、新年度（令和 2 年度）より、厚田学園と石狩八幡小学校の

2 校に於いて、コミュニティースクールが導入され、更に翌年度には

市内全校で取り組みが始まります。

これまでにも、学校と地元の地域の方々とは、密接な繋がりを持って

学校運営をされて来た事と思いますが、今後益々地域の方々に見守られて

学校運営がされて行く事になります。

武雄市の様に、子供たちの教育環境に人口の格差による差が出ない様に、

又、不登校の子が増えている事を心配し、何とかしなければという

地域の方々の思いからスタートした、この官民一体型学校は、

コミュニティースクールの模範となる事業でした。

民間のノウハウを生かした授業については、石狩市では

沢山の学習塾が有る中、選定が中々難しいとも感じておりますが、

今後も、子供たちにとっての学習環境、そして学校環境が

更により良い物になる様研究して参ります。

公明党会派視察報告書

報告者　　遠藤　典子

日程　　：令和元年 10 月 31 日（木）～11 月 2 日（土）

参加者　：加納　洋明・阿部　裕美子・遠藤　典子

視察先　：熊本県山鹿市　（11/1）

目的　　：認知症対策の先進的取り組みを学ぶ

熊本県は県や市町村が「認知症サポーター」の養成に積極的に取り組んでおりサポーター―数は全国でもトップクラスです。

更には理解を深める活動から一歩進み、「傾聴ボランティア」の養成や「認知症アドバイザー」の養成など支援体制の構築を図っている自治体も多い県です。

熊本県認知症疾患医療センターを受診されるご家族は専門書を片手に疾患に対する知識をお持ちの方も少なくなく、このようにご家族も知識を深め医師としっかりとタッグを組み認知症に向き合っています。

今回、熊本県の中でも山鹿市の「認知症サポーターの養成と活動の支援」の取り組みを学ぶため視察させて頂きました。

石狩市も「認知症サポーター養成講座」を開催し目標人数に近づきつつありますが更に一歩進めたサポーターの活躍促進に力を注ぐ必要があると感じています。

高齢化が進み、認知症の方も増えていく今日、住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けるためには地域の皆さんの力が必要です。

行政はシステムづくりをし市民力アップをリードしていく役割が求められます。

今回の視察で学んだことが石狩市で生かされることを期待し

令和元年度　第４回定例会に於いて一般質問させて頂きました。

その原稿を添付致します。

次に認知症対策についてお聞きします。

現在、石狩市の 65 歳以上の高齢化率は 33.0%で超高齢社会が進んでおり、そのうち厚田区では 45.4%　浜益区においては 56.6%です。

高齢化に比例して認知症発症率も上昇します。

全国の認知症高齢者は 2025 年には 700 万人を超え、高齢者の 5 人に一人は認知症と言う時代が到来します。

石狩市も要介護認定を受けている方のうち認知症　自立度Ⅱa 以上の方は 1800 人を超えており、高齢者の 10 人に 1 人が日常生活に何らかの支障をきたしていますが、実際には把握されていない方々もおり、もっと多いと予想されます。

これからの認知症対策は行政がやるべきことと、個人や地域がやるべきことを立て分け、きちんと整理して相互の力を発揮し進めるべきと思います。

地域の高齢者を家庭だけではなく地域住民で見守り、支えるという互助のネットワークが必要な時代になりました。

厚生労働省は 2005 年度に認知症の人や家族を手助けする「認知症サポーター」制度を創設しました。

このサポーター制度は認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して、自分のできる範囲で手助けをするというものです。

地域に認知症サポーターの方がいれば変化に対する気づきも早く早期発見に繋がり、また徘徊している高齢者にもいち早く対応できるでしょう。

そして介護をしている、ご家族にも寄り添うことができます。

安心して住み続けられる地域を作るためには、認知症サポーターの存在意義は大きく、益々必要とされていきます。

石狩市では第 7 期　介護保険事業計画の終了する令和 2 年度までに認知症サポーターを人口の 10%の 5800 人を目標に取り組んでおり現在、実数で 4000 人を超えましたが、最近は「広がりが薄い」との現状を聞いておりますし

実際に身近な方に聞いても認識度は極めて低いです

そこで先進的な取り組みをしている熊本県山鹿市を視察させて頂きました。

熊本県自体が認知症に対する関心が非常に高く、認知症サポーター数の人口比率でもトップクラスで県や市町村は積極的に取り組んでいます。

山鹿市は人口 52.000 人、石狩市より 6.000 人少なく高齢化率は 36.4%です。

認知症サポーター養成講座の受講数は延べ 19.180 人。

大きな特色として、小学 4 年生と中学生で授業のふたコマを使い受講するので一人の子どもに対して小学校で 1 回、中学生で 1 回勉強することになります。

そして、学んだことを成果発表として年に 1 回「認知症市民フォーラム」で披露するそうです。

子ども達が発表するので、ご家族も見に来ますし親子の会話にもなり、認知症の理解拡大に繋がっているそうです。

次の時代を担う子ども達にも必要な教育ではないでしょうか。

この「認知症市民フォーラム」は認知症と言う言葉をそのまま使っており

年に2回開催され1回に200名～300名が参加するそうです。

その他の特色として、認知症サポーターの役割を発展させ、地域全体での認知症高齢者の見守りや支える活動を主導し、活性化する「認知症地域サポートリーダー」を育成しています。

養成講座では介護施設での実習も組み込まれており、実践力を身につけたリーダーが地域課題の検討や養成講座の計画を立てるなどの活動を行っています。

一面ではお元気な高齢者の活躍の場にもなっています。

2019年度より「チームオレンジ」の取り組みが開始されていますが、この山鹿市の活動がベースになっているとのことでした。

この市民力の高まりをどのように推し進めてきたのか、お尋ねすると「コツコツやることです。休むと停滞しますから」と淡々と語る中にも強い信念を感じました。

他にも京都の綾部市では独自の研修で「シルバーサポーター」「ゴールドサポーター」とし地域福祉の担い手を育成しています。

ここで、三点、質問をさせて頂きます。

一点目

今後、地域や企業にも多くの認知症サポーターが必要となります。

広がりが薄くなっている現状に対し今後、どのように啓発し拡大に取り組むのか、そしていかに市民力を高めていくのか、お考えをお聞きします。

二点目

山鹿市のように学校の授業に組み込むことはできないのでしょうか。

また、その成果を発表できる機会を設ける、お考えはないでしょうか。

三点目

石狩市には「ステップアップ講座」がありボランティア活動に進む方もいらっしゃいますが山鹿市の「認知症地域サポートリーダー」や綾部市の「シルバー・ゴールドサポーター」などの明確な役割を持った、地域福祉の担い手を育成していくお考えはないかお聞きします。